

2013年度
日本魚類学会年会
プログラム

The 46th Annual Meeting, 2013

期日：2013年10月3日（木）～6日（日）

場所：宮崎観光ホテル

日本魚類学会

The Ichthyological Society of Japan

2013年度日本魚類学会タイムスケジュール

10月3日(木) 12:00-14:30 編集委員会(大虹)
15:00-17:00 評議員会(大虹)

10月4日(金) 12:45-14:30 自然保護委員会(大虹)

	8:00	9:00-10:00		10:15-11:15		11:30-12:45		13:30-14:30	14:30-16:00		16:15-17:00	18:30-20:30
口頭発表 第1会場 緋燿	受付	分類	休憩	分類	休憩	総会 受賞者講演	昼食		分類・系統	休憩	分子	懇親会 緋燿+碧燿
		1-4		5-8					9-14		15-17	
口頭発表 第2会場 碧燿		保全・生態	保全・生態		セッション	生理・遺伝・生態						
ポスター発表 翠燿		37-40		41-44				コアタイム 奇数番号	自由発表 奇数番号		51-53	
		自由発表 奇数番号						コアタイム 奇数番号	自由発表 奇数番号			

10月5日(土)

	8:00	9:00-10:00		10:15-11:15		11:30-12:30		13:30-14:30	14:30-16:15		16:30-17:15
口頭発表 第1会場 緋燿	受付	系統	休憩	系統・分子	休憩	系統・分子	昼食		分布・分子・形態	休憩	資源・生態
		18-21		22-25		26-29			30-36		76-77 17:00終了
口頭発表 第2会場 碧燿		生態・行動	生態・行動		保全・生態	行動・生態	生態・保全				
ポスター発表 翠燿		54-57		58-61		62-65		コアタイム 偶数番号	自由発表 偶数番号		73-75
		自由発表 偶数番号						コアタイム 偶数番号	自由発表 偶数番号		

10月6日(日)

	8:00	9:00-12:00		13:15-17:00
シンポジウム 第1会場 緋燿	受付	シンポジウム 生物多様性解析のフロンティア: 魚類の保全管理に生かす		シンポジウム 生物多様性解析のフロンティア: 魚類の保全管理に生かす
			昼食	

- 口頭発表 第1会場 3F 緋燿
- 口頭発表 第2会場 3F 碧燿
- ポスター発表 3F 翠燿
- 総会 3F 緋燿
- 奨励賞受賞講演 3F 緋燿
- オークション 2F 初雁
- 懇親会 3F 緋燿+碧燿
- シンポジウム会場 3F 緋燿

研究発表プログラム

口頭発表

(1 演題の持ち時間は、発表 12 分と質疑応答 3 分の計 15 分、共同発表者があるときは○が演者)

口頭発表 第 1 会場 (緋耀)

10 月 4 日 (金)

午前の部 09:30-12:45

(分類)

- 1 09:00- ウミヘビ科ニンギョウアナゴ亜科ミミズアナゴ種群の分類学的再検討
○日比野友亮・木村清志 (三重大院水実)
- 2 09:15- 日本に産するドジョウ属の分類
○中島 淳 (福岡県保環研)・橋口康之 (大阪医科大)・中村朋史 (国立感染症研)・洲澤 讓
(有) 河川生物研)
- 3 09:30- トウゴロウイワシ科ギンイソイワシ属の分類学的再検討
○木村清志・笹木大地 (三重大水実)
- 4 09:45- 西太平洋から得られたフサカサゴ科ミノカサゴ属の 1 未記載種
○松沼瑞樹 (鹿大連農)・本村浩之 (鹿大総博)

休憩 10:00-10:15

(分類)

- 5 10:15- 沖縄舟状海盆から得られたハタ科スミツキハナダイ属の 1 未記載種
○山川 武 (高知市)・遠藤広光 (高知大学)
- 6 10:30- インド洋におけるハタンボ属の分類学的再検討
○小枝圭太 (琉大理)・吉野哲夫 (沖縄美ら島財団)・立原一憲 (琉大理)
- 7 10:45- 日本産ヘビギンボ属魚類に関わる全名義種の分類学的位置づけ
○目黒昌利 (鹿大連農)・本村浩之 (鹿大総博)
- 8 11:00- ヘビギンボ科 *Helcogramma ishigakiensis* (Aoyagi, 1954) の有効性および標準和名の検討
○田代郷国 (鹿大院水産)・本村浩之 (鹿大総博)

2013 年度 日本魚類学会学会賞

日本魚類学会奨励賞 受賞講演

「フグ目を中心としたスズキ類 Percomorpha の系統分類学的研究」

山野上祐介 (東大院農)

日時 10 月 4 日 12:15 - 12:45

場所 第 1 会場 (緋耀)

日本魚類学会論文賞

「交尾型および非交尾型カジカ科魚類における精巢構造と精子形態の比較」

古屋康則 (岐阜大教育)・早川洋一 (ICU 大院理研)・Alexander Markevich (RAS)・宗原弘幸 (北大 FS センター)

「島根県の中新世後期から発見されたアユ (*Plecoglossus altivelis*) 化石」

小寺春人 (鶴見大歯)・友田淑郎 (元国立科博)

午後の部 14:30-17:00

(分類・系統)

- 9 14:30- 太平洋産, および日本海産ダンゴウオに見られた遺伝的・形態的差異
○甲斐嘉晃 (京大フィールド研)・池口新一郎 (のとじま水族館)・中坊徹次 (京大総博)
- 10 14:45- AFLP 法によるアバチャン (クサウオ科) の遺伝的集団構造の推定
○東海林明 (京大院農)・甲斐嘉晃 (京大フィールド研)・上田祐司 (日水研)・濱津友紀 (北水研)・伊藤正木 (東北水研)・中坊徹次 (京大総博)
- 11 15:00- バイカル湖産カジカ類 アビソコッタス科 *Abyssocottidae* の系統的位置
○佐々木嘉子・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 12 15:15- 日本産ハゼ科ジュズカケハゼ種群の分類と同定
○渋谷浩一 (長尾財団)・向井貴彦 (岐阜大地域)・千葉 悟 (国立科博)
- 13 15:30- シッポウフグ属の分類学的検討と奄美大島の海底にミステリーサークルを作るシッポウフグ属の1未記載種
松浦啓一 (国立科博)
- 14 15:45- 東シナ海の大陸棚から得られた生殖腺指数と形態の異なるハリセンボン *Diodon holocanthus*
○戸田 実・宮本 圭 (美ら島財)・山野上祐介 (東大院農)・中村 将 (美ら島財)・松浦啓一 (国立科博)

休憩 16:00-16:15

(分子)

- 15 16:15- マイクロサテライト DNA 分析からみた高知県産アカメの遺伝的集団構造
○上田修作・武島弘彦 (東大大海研)・高橋 洋・田上英明 (水大校)・中山耕至 (京大院農)・小松輝久 (東大大海研)
- 16 16:30- 日本の南限付近 (南九州付近) の在来ヤマメの分布域の探索と生息状況
○末永直樹 (宮崎大農)・稲野俊直 (宮崎水試)・田中文也 (宮大院農)・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 17 16:45- 日本の南限に位置する九州地方の在来ヤマメの遺伝学的特徴—九州には台湾サラマオマス系統のサクラマスは分布するの?—
○岩槻幸雄・末永直樹 (宮崎大農)・田中文也 (宮大院農)・稲野俊直 (宮崎水試)

10月5日 (土)

午前の部 09:00-12:30

(系統)

- 18 09:00- アナゴ科魚類の系統類縁関係の推定
○櫻井慎大・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 19 09:15- ヒメ科魚類 (*Aulopidae*) の類縁関係
○川端 青・細谷和海 (近大院農)
- 20 09:30- アンコウ目とフグ目の近縁性に関する形態学的検証
○池田浩介・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 21 09:45- アジ科クロヒラアジとナンヨウカイワリの系統的位置およびその形態学的特徴
○武内 俊・木村清志 (三重大院水実)

休憩 10:00-10:15

(系統・分子)

- 22 10:15- 西部太平洋に分布するタイ科マダイ属魚類の遺伝的特徴
○田中文也 (宮崎大院農)・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 23 10:30- 骨格系から見たシロクラハゼグループの類縁関係
○奥村大輝・細谷和海 (近大院農)
- 24 10:45- 次世代シーケンシングによる魚類の大量ミトコンドリアゲノム分析法の確立
○武島弘彦・平瀬祥太郎・岩崎 渉 (東大大気海洋研)・田畑諒一・渡辺勝敏 (京大院理)・西田 睦 (琉球大)
- 25 11:00- 高性能自動アノテーションパイプライン MitoAnnotator の実装による魚類ミトコンドリアゲノムデータベース MitoFish の充実
○西田 睦 (琉大)・福永津嵩・砂子澤遼太 (東大院新領域)・山田浩一郎 (株式会社 RNAi)・佐藤 崇 (国立科博)・佐土哲也・宮 正樹 (千葉中央博)・武島弘彦・馬淵浩司・前田泰伸・岩崎 渉 (東大大気海洋研)

休憩 11:15-11:30

(系統・分子)

- 26 11:30- 琵琶湖における多倍数性フナ類の遺伝的構造
○三品達平・田畑諒一 (京大院理)・中野光議 (滋賀県立大)・高田未来美・武島弘彦 (東大大気海洋研)・西田 睦 (琉球大)・渡辺勝敏 (京大院理)
- 27 11:45- 沖縄島南方沖から得られた深海性フエダイ類の仔魚と DNA バーコーディング法による同定の試み
○岩本健輔 (琉球大理)・上原匡人 (沖水海技セ・琉大院理)
- 28 12:00- 最終氷期の気候変動と底生深海魚の集団形成；2種のゲンゲ類の比較
○佐久間啓 (東大大海洋研)・上田祐二 (日水研)・小島茂明 (東大大海洋研)
- 29 12:15- 南シナ海沿岸魚類の多様性形成史に関する比較系統地理学的研究 (予報)
○武藤望生・高木 映 (地球研)・本村浩之 (鹿大総博)・緒方悠香 (地球研)・Somnuk PORNPATIMAKORN (SEAFDEC)・Ricardo BABARAN (UPV)・佐藤 崇 (科博)・武島弘彦 (東大海洋研)・武藤文人 (東海大海洋)・石川智士 (地球研)

午後の部 14:30-17:00

(分布・分子・形態)

- 30 14:30- ユーラシア大陸で初めて発見されたボウズハゼ亜科の高密度生息地
○前田 健 (OIST)・Hau Duc TRAN (ハノイ教育大)
- 31 14:45- 遙かなる赤道の記憶 ～ 琉球の海洋島・南大東島の魚類相とフィールド情報
○栗岩 薫 (神奈川県博)・千葉 悟 (国立科博)・松沼瑞樹 (鹿大総博)・松浦啓一 (国立科博)
- 32 15:00- 大東諸島の浅海性魚類の分子系統地理—ユウゼンの遺伝的集団構造解析
○千葉 悟 (科博)・後藤 亮 (山形大理)・栗岩 薫 (神奈川県博)・松浦啓一 (科博)
- 33 15:15- サンクトペテルブルグのロシア科学アカデミー動物学博物館(ZIN)に現存する日本産魚類標本資料 Langsdorff Collection について
○滝川祐子 (香川大農)・吉野哲夫 (美ら島財団)

- 34 15:30- ギンザメ目魚類における頭部把握器の運動および形態学的多様性
○荻本啓介（北大院水産）・河合俊郎（北大総合博）・矢部 衛（北大院水産）
- 35 15:45- カワヨシノボリ *Rhinogobius flumineus* の発育側線学（予報）
○中江雅典（国立科博）・倉島 陽（東大院理）
- 36 16:00- ハゼ垂目魚類における表在感丘列の起源
○朝岡 隆・佐々木邦夫（高知大理）

休憩 16:15-16:30
(資源・生態)

- 76 16:30- 回復のきざしをみせる日本海南西海域のマイワシ資源
○尾田昌紀・志村 健・太田太郎・石原幸雄（鳥取水試）・福若雅章・大下誠二（水研セ西水研）
- 77 16:45- ニホンウナギの産卵地点推定のための第三象限仮説
○渡邊 俊（日大生物資源）・青山 潤・Michael J. MILLER（東大大気海洋研）・望岡典隆（九大院農）・大竹二雄（東大大気海洋研）・吉永龍起（北里大海洋）・岡崎 誠（水研セ中央水研）・塚本勝巳（日大生物資源）

口頭発表 第2会場（碧耀）

10月4日（金）

午前の部 09:00-11:15

(保全・生態)

- 37 09:00- タイリクバラタナゴに対するサケ脳下垂体抽出液とホルモン剤の催熟効果の比較
○小田優花・北川哲郎（近大院農）・畑田賢吾・細谷和海（近大農）
- 38 09:15- 人工構造物周辺における淡水カジカの移動環境
○村岡敬子・中西 哲・萱場裕一（独法土研）
- 39 09:30- 間伐材を用いた小型魚礁と水田池によるギバチの復元
○勝呂尚之（神奈川県水産課）・安斎 俊（神奈川県水技セ内水試）・住倉英孝（KWN）
- 40 09:45- 台風による溪流の攪乱とアマゴの回復状況 ―自然河川と堰堤の続く改修河川の違い―
○檜島弘隆・松村 哲（東海大院海洋）・齋藤弘充・高橋幸之助・菊池竜太（東海大海洋）・中道一彦（気田川漁協）・長谷川三男（芝川漁協）・赤川 泉（東海大海洋）

休憩 10:00-10:15
(保全・生態)

- 41 10:15- 沖縄島源河川におけるリュウキュウアユの現状
岡慎一郎・○宮本 圭（美ら島財団）
- 42 10:30- 三角網，曳き網，巻き網を用いたオオクチバス *Micropterus salmoides* 稚魚の駆除
○芦澤 淳・藤本泰文・鈴木勝利・星 雅俊・嶋田哲郎（伊豆沼財団）
- 43 10:45- 伊豆沼・内沼の外来魚防除活動におけるオオクチバス *Micropterus salmoides* の減少と当歳魚に見られた大型化
○藤本泰文・芦澤 淳・嶋田哲郎（伊豆沼財団）・高橋清孝（シナイ郷会）

- 44 11:00- オオクチバスを対象とした吊り下げ式人工産卵装置：新たな改良と影響評価の試み
中井克樹（琵琶湖博）

午後の部 14:30-17:00

（セッション）日本の古代湖・琵琶湖における魚類進化と生態研究の現在とこれから

- 45 14:30- 琵琶湖固有魚類相に関する研究：これまで
渡辺勝敏（京大院理）
- 46 14:45- 琵琶湖固有魚類の起源と進化：ミトコンドリアゲノムにおける適応進化の可能性
○田畑諒一（京大院理）・武島弘彦・平瀬祥太郎（東大大気海洋研）・西田 睦（琉球大）・
柿岡 諒（京大生態研）・小宮竹史・渡辺勝敏（京大院理）
- 47 15:00- 日本在来コイのレフュージアとしての琵琶湖
○馬淵浩司・ソン ハヨン・武島弘彦（東大大気海洋研）・中井克樹（琵琶湖博）・瀬能 宏
（神奈川県博）・西田 睦（琉球大）
- 48 15:15- 安定同位体比から見た琵琶湖産アユの回遊行動多型
○酒井陽一郎（京大生態研）・武山智博（岡山理科大）・荻部甚一（国立環境研）・陀安一郎・
奥田 昇（京大生態研）
- 49 15:30- 琵琶湖沖帯環境への適応：タモロコ属魚類における形態分化の遺伝的基盤の探索
○柿岡 諒（京大生態研）・小北智之・熊田裕喜（福井県立大）・渡辺勝敏（京大院理）・奥
田 昇（京大生態研）
- 50 15:45- 標本が拓く魚類学の無限の可能性：琵琶湖の過去・現在・未来
奥田 昇（京大生態研）

休憩 16:00-16:15

（生理・遺伝・生態）

- 51 16:15- ヒイラギ *Nucleophila nuchalis*（スズキ目ヒイラギ科）の発音システム：音の特性と発音メカニズム
○小島拓史・宗宮弘明（中部大院応用生物）
- 52 16:30- 雄の繁殖戦略を決める原因遺伝子座の同定：ハリヨを用いた QTL 解析
○小北智之・野々垣初音（福井県立大）・森 誠一（岐阜経済大）
- 53 16:45- 漁獲場所によって異なる大分県下のスズキ成魚の性比
景平真明（大分水研）

10月5日（土）

午前の部 09:00-12:30

（生態・行動）

- 54 09:00- 厚木市・多々良沢源流におけるホトケドジョウの生態について
住倉英孝（KWN）
- 55 09:15- 岐阜県のダム湖における魚類の炭素・窒素安定同位体比分析
○淀 太我・野々目亮（三重大院生資）・北村浩昭・高倉良太（テクノ中部）・中西嘉人（中
部電力）

- 56 09:30- ため池におけるカワバタモロコ *Hemigrammocyppris rasborella* の食性
 ○鈴木規慈 (三重大院生物資源)・向井良行 (三重大院生物資源)・大塚泰介 (琵琶湖博物館)・
 畠山絵美・原田泰志 (三重大院生物資源)
- 57 09:45- 遡河回遊性魚類の生活史における雄多型と両性多型：なにが違うのか？
 ○後藤 晃 (北の川魚研)・北村武文 (北大 FSC)

休憩 10:00-10:15

(生態・行動)

- 58 10:15- 島根県中ノ島におけるアナハゼ属の1種ヤナギアナハゼの生態
 須田健太 (岡部 (株) 応用藻類研)
- 59 10:30- 独身化した雄の配偶者再獲得戦術：一夫多妻のホンソメワケベラの場合 (2)
 ○桑村哲生 (中京大国際教養)・門田 立 (水研セ西海水研) 鈴木祥平 (琉球大亜熱帯島嶼
 科学)
- 60 10:45- ヒメジ科魚類の採餌生態と鬚の形態の関係性
 ○鮫島翔太 (琉球大院理工)・立原一憲 (琉球大理)
- 61 11:00- ハタ科クエの配偶システムと雌性先熟性転換
 ○野際はるか (海洋大館山)・塩田 寛 (伊戸 DS)・須之部友基 (海洋大館山)

休憩 11:15-11:30

(保全・生態)

- 62 11:30- 沖縄島南部の佐敷干潟および漫湖におけるナミハゼとイズミハゼの成熟と生息環境
 ○國島大河 (琉大院理工)・立原一憲 (琉大理)
- 63 11:45- Habitat selection and maturation process in the Picasso triggerfish *Rhinecanthus aculeatus*
 ○Fabienne ZIADI-KÜNZLI・立原一憲 (琉大理)
- 64 12:00- 消えたニジマス～千歳川水系で起きた外来種ニジマスから外来種ブラウントラウトへの置換
 現象～
 ○長谷川功 (北水研)・川合英之・石山信雄 (北大院農)
- 65 12:15- アユの胸鰭条数の地理的変異
 井口恵一朗 (長大院水環)

午後の部 14:30-17:15

(行動・生態)

- 66 14:30- クマノミ類はなぜ一夫一妻か?: カクレクマノミにおける同性間競争仮説の検討
 ○須之部友基・施 辰豪 (海洋大館山)・桑村哲生 (中京大学)
- 67 14:45- トビギンポの生殖腺観察と雄性先熟性転換
 ○下光利明・須之部友基 (海洋大館山)
- 68 15:00- 屋久島におけるオキザヨリ *Tylosurus crocodilus crocodilus* (ダツ科) の産卵行動と卵の形状-
 「魚類繁殖記録プロジェクト」のデータからの報告
 ○川瀬裕司 (千葉中央博・海)・原崎 森 (森と海)
- 69 15:15- カエルアンコウの配偶者選択と雄間競争
 ○高橋大樹 (東海大院海洋)・村主暁重 (東海大海洋)・戸館真人 (竹島水族館)・鈴木宏易
 (東海大海洋科学博物館)・赤川 泉 (東海大海洋)

- 70 15:30- カムルチー *Channa argus* の繁殖生態に関する再検討
○佐藤拓也 (東海大院海洋)・吉川浩司・赤川 泉 (東海大海洋)
- 71 15:45- 巣穴と配偶者の選択がハナハゼの行動に与える影響
○鈴木翔子・木村瑞紀 (東海大院海洋)・白井和紗 (東海大海洋)・岩瀬文人 (黒潮研)・中野正夫 (SEA HORSE)・赤川 泉 (東海大海洋)
- 72 16:00- The cost of doing business: factors influencing reproductive success at a spawning aggregation site
○Terry J. DONALDSON・Marylou H. STAMAN・Taryn MESA (University of Guam)

休憩 16:15-16:30

(生態・保全)

- 73 16:30- 中部・東北地方の河川に移入されたオイカワの生態
○片野 修 (水研セ増養殖研)・河村功一 (三重大生物資源)・馬場吉弘 (柏崎高)
- 74 16:45- 高解像度航空写真画像を用いた野外調査：スズメダイ科魚類の生息種数の多い場所の予測
○服部昭尚 (滋賀大教育)・澁野拓郎 (水研セ・増養殖研)
- 75 17:00- 福井県内河川における人工構造物が両側回遊型カジカの分布・生息密度に与える影響
○田原大輔・岩崎雄介 (福井県立大)

ポスター発表

(ポスターは発表初日の10月4日午前9時までに指定の場所に貼附し、2日間掲示する。
奇数演題のコアタイムは10月4日13:30-14:30、偶数演題は10月5日13:30-14:30)

ポスター発表 第3会場 (翠燿)

- 78 日本産ニシン科魚類の耳石 - 種同定のための形態比較 -
○三井翔太・横田賢史・Carlos A. STRUSSMANN (東京海洋大)
- 79 タラ目とマトウダイ目の近縁性に関する形態学的検証
○森田恭司・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 80 A presumed natural hybrid between two Korean ricefishes, *Oryzias latipes* and *O. sinensis*
○Hyun-Tae KIM (全北大学校)・Yong-Joo LEE (清州教育大学校)・Jong-Young PARK (全北大学校)
- 81 バイオメテイクス・データベース構築とフグ目の体表構造
篠原現人・○片山英里・田城文人・松浦啓一 (国立科博)・河合俊郎 (北大総合博)
- 82 巨大ウツボは一種かそれとも複数種か。一葉形仔魚形態と遺伝子解析による結論—
○田和篤史・望岡典隆 (九大院農)
- 83 本邦沖太平洋の深海底から採集されたホラアナゴ科 *Haptenchelys* 属の一種
○田城文人・篠原現人 (国立科博)
- 84 紅海から得られたカタクチイワシ科タイワンアイノコイワシ属の2未記載種
○畑 晴陵 (鹿大水産)・本村浩之 (鹿大総博)
- 85 西オーストラリア沖から得られたニギス科ニギス属の1未記載種
○遠藤広光 (高知大理)・ラスト ピーター (CSIRO)
- 86 ペルー沖で採集されたハダカイワシ科魚類の分類学的研究
○佐藤広崇・今村 央・矢部 衛 (北大院水産)
- 87 北西オーストラリアおよびニュージーランド沖から採集されたソトオリワシ属魚類の1未記載種
○鈴木貴志 (高知大院理)・遠藤広光 (高知大理)
- 88 南東大西洋の海山から採集されたソコダラ科ネズミダラ属の1未記載種
○中山直英・遠藤広光 (高知大理)
- 89 「不思議」か「摩訶不思議」か? : 与論海盆で採集されたフシギウオ属成魚の報告
○佐藤 崇・片山英里 (国立科博)
- 90 アシロ科フクメンイタチウオ属における2種の異名関係と1未記載種
○富山晋一 (東海大博物館)・高見宗広・福井 篤 (東海大海洋)
- 91 アカグツとヘリグロアカグツの形態的および遺伝的差異
○高田義紘 (近大院農)・甲斐嘉晃 (京大フィールド研)・柳下直己 (近大院農)
- 92 フサカサゴ科魚類グアムカサゴの分類学的再検討: グアムカサゴとサンゴカサゴは同一種で後者に適応されていた名義種 *Scorpaenodes scaber* はオーストラリアの固有種
○本村浩之 (鹿大総博)・Romain CAUSSE (仏国立自然博)・Carl STRUTHERS (新西蘭国立博)
- 93 アカタナゴ2集団の形態的差異
○片渕弘志 (沖縄環境科学研究所)・甲斐嘉晃 (京大フィールド研)・中坊徹次 (京大総博)
- 94 オニオコゼ科ヒメオコゼ属 (*Synanceiidae*: *Minous*) の分類学的再検討
○荻原豪太 (鹿大連農)・本村浩之 (鹿大総博)
- 95 沖縄県から得られた日本初記録のテンジクダイ科魚類 *Neamia notula*
○吉田朋弘 (鹿大連農)・桜井 雄 (沖縄環境調査)・本村浩之 (鹿大総博)
- 96 フエダイ科フエダイ属3稀種の遺伝系統, および太平洋とインド洋におけるイモトフエダイの遺伝的差異
○津崎兼土 (宮崎大農)・田中文也 (宮崎大院農)・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 97 日本産フエキダイ科メイチダイ属魚類の分類学的研究
○三木涼平 (宮大院農)・岩槻幸雄 (宮崎大農)

- 98 スズメダイ科魚類 *Chromis analis* と *C. xouthos* の日本における記録と標準和名
○岩坪洗樹(鹿児島漁連)・本村浩之(鹿大総博)
- 99 西太平洋に分布するベラ科魚類 *Terelabrus* 属の 1 未記載種
○福井美乃(鹿大総博)・出羽慎一(海案内)・本村浩之(鹿大総博)
- 100 タチウオ科タチウオ属 *Trichiurus lepturus* Linnaeus 1758 の分類学的再検討
○日高浩一・塚本洋一(水研セ西海水研)・岩槻幸雄(宮崎大農)
- 101 ゼゼラ類の類縁関係と保全
○川瀬成吾・細谷和海(近大院農)
- 102 クロサギ科クロサギ属 *Gerres* の分子系統解析
○林田奈々・田中文也(宮大院農)・岩槻幸雄(宮崎大農)
- 103 ツバメコノシロ科魚類の単系統性の検証
○宍 世華・今村 央・矢部 衛(北大院水産)
- 104 ハゼ亜目魚類の多様化プロセス:ミトゲノム全長配列と Supermatrix 法による網羅的系統解析
○昆 健志(東邦大理)・佐土哲也・(千葉中央博)・Lukas RUBER (NHM, London)・佐藤 崇(国立科
博)・吉野哲夫(美ら島財団)・西田 睦(琉球大)・宮 正樹(千葉中央博)
- 105 ミトコンドリア DNA 分析からみた韓国および日本沿岸におけるコノシロの遺伝的集団構造
Woo-Seok GWAK・Dong-Hoon HAN(韓国慶尚大)・○中山耕至(京大院農)
- 106 ミトコンドリアおよびマイクロサテライトマーカーに基づくウケクチウグイ *Tribolodon nakamurai* とその近
縁種の集団解析
○井元順一・伊藤-関本 綾(山形大理)・柴田清孝(石巻専修大理工)・佐々木 剛(東農大農)・玉手
英利・半澤直人(山形大理)
- 107 新規な遺伝基盤によるイトヨ那須集団の鱗板欠損の進化
○鈴木悠斗(福井県立大)・森 誠一(岐阜経済大)・小北智之・(福井県立大)
- 108 中国および韓国におけるスズキ-タイリクスズキ間の自然交雑の確認
○山田 諒・中山耕至(京大院農)・Woo-Seok GWAK(韓国慶尚大)
- 109 mtDNA 調節領域におけるヤマノカミの遺伝的多様性
○石黒直哉・藤田健太郎(城西大理)・田原大輔(福井県大海洋生物資源)・竹下直彦(水大校)
- 110 キララハゼ属 3 種における遺伝的集団構造と生態的特性の関係
○松井彰子(京大フィールド研)・中山耕至(京大院農)・甲斐嘉晃・山下 洋(京大フィールド研)
- 111 AFLP 法によるショウサイフグとゴマフグの雑種判別
○高橋 洋・豊田愛莉(水大校)・益子 剛・山崎幸夫(茨城県水試)
- 112 タイ王国プーケット島およびラノン県から採集された海産魚類
ビラスリ ビーラ(タイ国立科博)・山中智之(青森産技セ)・栩野秀平(北大院水産)・○河合俊郎(北
大総博)・ラムアンクウワン サハト(カセサート大)・今村 央(北大院水産)
- 113 標本に基づいた高知県産エイ類のチェックリスト
○三澤 遼・遠藤広光(高知大理)
- 114 東南極海アデリーランド沖におけるナンキョクダルマハダカ(ハダカイワシ科)の空間分布
○藤井健太郎・若原千恵子(海洋大院)・小島本葉(総研大院)・高橋邦夫・谷村 篤(極地研)・茂木
正人(海洋大院)
- 115 南シナ海南部におけるササウシノシタ科魚類相
○鄭 ビョル(鹿大院水産)・本村浩之(鹿大総博)
- 116 対馬暖流の勢力と福岡県津屋崎周辺の魚類相とは関係するのか: 大学実習プログラムを利用した長
期モニタリングの試み
○鬼倉徳雄(九大院農)・西田高志(王子ホールディングス)・乾 隆帝(徳大院工)・及川 信(九大院
農)
- 117 羽田空港新滑走路建設にともなう多摩川河口域の魚類相への影響
○関澤知彦・茂木正人・河野 博(海洋大)
- 118 アジア産淡水・汽水フグの水族館での自然繁殖
○土井啓行・園山貴之・石橋敏章(下関水族館)・酒井治己(水大校)

- 119 シッポウブグ属の1未記載種が奄美大島南岸の海底に作ったミステリーサークルから得られた卵と仔魚
○園山貴之・土井啓行(下関水族館)・千葉 悟・松浦啓一(国立科学博物館)・石橋敏章(下関水族館)
- 120 濁水発生時における魚類の避難場所としての水際植生の役割
○川西亮太・森 照貴・小野田幸生(土木研)・梅本章弘(土木研、復建調査設計)・加藤康充(土木研、建設環境研)・萱場祐一(土木研)
- 121 準絶滅危惧種ヒモハゼによるヨコヤアナジャコとニホンスナモグリの巣穴利用
○邊見由美・伊谷 行(高知大院教育)
- 122 琵琶湖から伊庭内湖へのホンモロコの産卵回遊
○亀甲武志・岡本晴夫・氏家宗二・三枝 仁・石崎大介(滋賀水試)・藤岡康弘(琵琶博)・甲斐嘉晃(京大フィールド研)
- 123 京都市久我水路に出現する淡水魚類
○田中和大・川瀬成吾(近大院農)・辻 晃一・須藤允之(近大農)・細谷和海(近大院農)
- 124 栃木県の圃場整備後の水田水域におけるナマズの繁殖移動
○森 晃(農工大連合農学)・水谷正一・後藤 章(宇大農学部)
- 125 琵琶湖流入河川におけるウグイの降湖回遊
○石崎大介(滋賀水試)・永田貴丸・水野敏明・大久保卓也(琵琶センター)・亀甲武志(滋賀水試)・淀 太我(三重大院生資)
- 126 松山平野における在来ヤリタナゴと移入アブラボテの交雑と遺伝子浸透
○松葉成生(愛媛大学院・理工学)・大内魁人・吉見翔太郎(愛媛大学・理)・畑 啓生(愛媛大学院・理工学)
- 127 多摩川河口干潟域に優占するハゼ科魚類の出現様式と食性
○渡邊亮太・茂木正人・河野 博(海洋大)
- 128 多摩川河口干潟域は魚類にどのように利用されているのか? : その1-利用様式の長期変化
○角張ちひろ・茂木正人・河野 博(海洋大)
- 129 沖縄島におけるタイワンダイの生物学的知見
○上原匡人(沖水技セ・琉大院理工)・太田 格・海老沢明彦(沖水技セ)・立原一憲(琉大理)
- 130 多摩川河口干潟域は魚類にどのように利用されているのか? : その2-優占種の利用様式と出現様式
○齊藤有希・茂木正人・河野 博(海洋大)
- 131 耳石微量元素解析による東京湾湾奥部に生息するマハゼの回遊行動
○松崎圭佑(海洋大)・加納光樹(茨城大水圏セ)・河野 博(海洋大)
- 132 多摩川河口干潟域は魚類にどのように利用されているのか? : その3-類似度と多様度の変化
○加瀬喜弘・茂木正人・河野 博(海洋大)
- 133 Adaptation of *Misgurnus mizolepis* for Cutaneous Respiration in Burrows of Ricefield from Korea
○Min-ki OH・Jong-Young PARK(全北大学校)
- 134 コイ科魚類オイカワにおける雄間闘争と婚姻色との関係
高橋大輔(長野大環境ツーリズム)
- 135 水槽内におけるオセレイテッド アイスフィッシュ *Chionodraco rastrispinosus* (スズキ目コオリウオ科) の産卵・卵保護行動
中村浩司・○多田 諭・三森亮介(葛西水族園)・岩見哲夫(東京家政学院大)
- 136 クモハゼ・ネストホルダー雄の繁殖成功に与える体サイズの影響
○川瀬翔馬(長崎大院水環)・佐藤成祥(長崎大院水環・学振)・吉田真明(遺伝研・生命情報)・竹垣毅(長崎大院水環)
- 137 一夫多妻のダンダラトラギスの野外雌除去実験における独身化した雄の幼魚防衛行動
○小木曾恵太・須之部友基(海洋大館山)・桑村哲生(中京大)・鈴木祥平(琉球大)・門田 立(水圏セ西水研)

- 138 温泉排水流入池に生息するモザンビークテラピアのオスの繁殖戦術:なわばり行動, 体色と性ホルモン
○安房田智司(新潟大理臨海)・鶴田哲也(大阪産大人間環境)・井口恵一朗(長崎大院水産環境科学)
- 139 九州北部 A 市に生息するニッポンバラタナゴの生息調査から試験導入までのプロセス
○川本朋慶・鬼倉徳雄(九大院農)
- 140 宿主魚類の移動に影響する農業用水路の縦断的連続性とイシガイ科二枚貝の関係
○永山滋也(独)土研)・玉置弘幸・根岸淳二郎(北大院地環研)・久米 学(岐経大)・萱場祐一(独)土研)
- 141 長野県レッドリスト見直し案および注目種の生息状況
○北野 聡(長野環境研)・山本 聡(長野水試)
- 142 河川工作物がカジカ大卵型の移動に及ぼす影響
○藁田孝晴(茨城大教育)・武島弘彦(東大大気海洋研)・井口恵一朗(長崎大院水産環境科学)
- 143 絶滅危惧種タナゴモドキ集団の遺伝的多様性と遺伝的均一性
○富田峻平(男鹿水族館 GAO)・松崎章平(美ら海水族館)・岡 慎一郎・戸田 実(美ら島財団)・今井秀行(琉球大理)
- 144 北上川水系磐井川の 3 支流域における潜在的な魚類の種プールと魚類相
○宮崎佑介(神奈川県博)・中江雅典(国立科博)・瀬能 宏(神奈川県博)
- 145 相模川水系と金目川水系におけるアブラハヤの集団構造とその攪乱の可能
○大井章豊(東農大 農 野生動物)・住倉英孝(KWN)・勝呂尚之(神奈川県水産課)・半澤直人(山形大 院理工)・安藤元一・小川 博・佐々木 剛(東農大 農 野生動物)
- 146 生息域外保存に向けたイチモンジタナゴのシャーレ式人工繁殖の試み
○北川哲郎・小田優花(近大院農)・山野ひとみ・武内啓明・畑田賢吾・細谷和海(近大農)
- 147 東日本大震災による淡水魚への影響:岩手県大槌町イトヨ集団における事例
○久米 学(岐阜経済大)・北野 潤(国立遺伝研)・鷺見哲也(大同大)・西田翔太郎・森 誠一(岐阜経済大)
- 148 京都府桂川におけるメダカ野生集団の遺伝解析
○中尾遼平(近大院農)・入口友香(近大農)・川瀬成吾・田中和大・細谷和海・北川忠生(近大院農)
- 149 奈良県産ニッポンバラタナゴの生息環境保全に向けた取り組み
○杉本智嗣・岡田龍也(近大院農)・中山卓弥・角田竜一・高尾将希・水本勝祐・北川忠生(近大農)
- 150 奈良県産ニッポンバラタナゴ生息池における産卵母貝の再導入の検討
○岡田龍也(近大院農)・野口亮太(近大農)・杉本智嗣(近大院農)・高田啓介(信大理)・北川忠生(近大農)
- 151 沖縄島におけるフェダイ属 3 種の年齢と成長
○荒木克哉・立原一憲(琉球大理)
- 152 シーボルトの足跡を訪ねて
○朝井俊亘・森宗智彦・川瀬成吾・細谷和海(近大院農)

高校生発表 第3会場(翠耀)

(高校生発表のコアタイムは10月5日13:30-14:30)

揖斐川水系支流におけるイワナの斑紋異常

○二村 凌(岐阜県立岐阜高等学校自然科学部生物班)・向井貴彦(岐阜大学地域科学部)・矢追雄一・高木雅紀(岐阜県立岐阜高等学校)

日本海西部におけるマダイの季節回遊と資源管理

○定行洋亮(明治学園中学高等学校)

チョウザメ海水馴致への挑戦

○牧野琢真・緒方 南・木場 徹・永友 翔・園田洋紀(宮崎県立宮崎海洋高等学校)

兵庫県武庫川水系の定点における淡水魚の出現パターン

○吉川友貴・清水雄太・岡 拓哉・富永浩史(関西学院高等部)

2013年度日本魚類学会年会シンポジウム

会 場：宮崎観光ホテル

日 時：2013年10月6日（日）9:00~17:00

生物多様性解析のフロンティア：魚類の保全管理に生かす

Frontier analysis of biodiversity in fishes

コンビーナー：鬼倉徳雄（九大院農）・乾 隆帝（徳島大院工）・赤坂卓美（北大院農）

コメンテーター：中村太士（北大院農）

1. 9:00- 9:15 はじめに
中村太士（北大院農） — 生物多様性地図化の試み
2. 9:15- 9:45 河川生態系の広域評価と実践をつなぐ方法論
三橋弘宗（兵庫県博）
3. 9:45-10:15 東南アジア広域における淡水魚類データベース・ニッチモデル構築への試み
◦鹿野雄一（九大院工）・渋川浩一・打木研三（長尾財団）・山下奉海・佐藤辰郎・富山雄太・島谷幸宏（九大院工）
(休憩)
4. 10:30-11:00 リュウキュウアユの広域・局所スケールのハビタット評価と保全・再生ポテンシャルの評価
大槻順朗（東理大理工）
5. 11:00-11:30 瀬戸内海流入河川汽水域における希少ハゼ類の生息適地推定
乾 隆帝（徳島大院工）
6. 11:30-12:00 ランダムフォレストを用いた九州北部のタナゴ類の生息環境評価
◦福田信二（九大院農）・山口真理恵（長崎市）・鬼倉徳雄（九大院農）・原田昌佳・平松和昭（九大院農）・中島 淳（福岡県）
(昼食休憩)
7. 13:15-13:45 典型種の分布パターンから河川生態系の現状を評価する：木曾三川を例にして
◦森 照貴（土木研）・上野公彦（岐阜県）・小野田幸生・高岡広樹・萱場祐樹・萱場祐一（土木研）
8. 13:45-14:15 魚類の保全と保護区設定：相補性を考慮して
◦赤坂卓美（北大院農）・森 照貴（土木研）・竹川有哉（徳島大）・石山信雄

(北大)・井上幹生(愛媛大)・三橋弘宗(兵庫県博)・河口洋一(徳島大)・鬼倉徳雄(九大)・三宅 洋(愛媛大)・片野 泉(兵庫県立大)・一柳英隆(九大)・中村太士(北大)

9. 14:15-14:45 どこから守る？なにから守る？～希少魚のすむ里山ため池群を例に～
◦小西 繭(信州大 SVBL)・高田啓介(信州大理)・井口恵一朗(長大院水環)
(休憩)
10. 15:00-15:30 国内・国外移入と絶滅がもたらす純淡水魚類群集の機能的多様性の変化～全国スケールの評価～
◦松崎慎一郎(国環研)・佐々木雄大(東大院新領域)・赤坂宗光(農工大院・農学研)
11. 15:30-16:00 九州中北部におけるニッポンバラタナゴとタイリクバラタナゴの交雑の予測の可能性
◦鬼倉徳雄・川本朋慶(九大院農)・中島 淳(福岡県)・三宅琢也・河村功一(三重大院生資)・福田信二(九大院農)
12. 16:00-17:00 質疑応答・コメント等

[シンポジウムの趣旨]

2010年、名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)において、生物多様性保全のための幾つかの目標が設定された。具体的には、2020年を達成目標とした「陸域・内陸水域の17%、沿岸域・海域の10%相当の保護地域等による保全」、「絶滅危惧種の絶滅・減少防止および減少著しい種に対する保全状況の維持・改善」、「遺伝子の多様性維持とその保護戦略の策定と実施」等である。そして、これらの目標を達成するために、保護区の候補地を選ぶための手法開発、絶滅危惧種の絶滅・減少防止や遺伝子の多様性維持に寄与する解析技術の向上、外来種の拡散に関する監視技術の構築などが求められている。また、これらの達成には、全国スケール、地域スケール、および流域スケールなど、様々な空間スケールでの保全対策が求められる。さて、近年の生物多様性解析技術の発達に伴い、日本国内の魚類に関しても様々な情報が集まり始めた。例えば、国内の生物多様性保護地域に相当する現在の自然公園・海洋保護区等と淡水魚類や汽水魚類の多様性ホットスポットと合致しないなどの情報が、学会発表等で紹介され始めた。また、外来魚類と絶滅危惧魚類の環境選好性の相違から希少魚類の保全・保護に適したエリアを選定する事例なども見受けられ始めた。そこで、本シンポジウムでは、魚類に的を絞り、広域スケールから地域スケールまでの解析事例、絶滅危惧種の保全や外来種の拡散防止をターゲットとした解析事例などを紹介する。そして、紹介された様々な生物多様性解析技術を、魚類の保全・管理に生かすための議論の場としたい。

2013年日本魚類学会年会会場 兼 懇親会会場
(宮崎観光ホテル)までのアクセス及び乗り場案内等



1) JR宮崎駅から

徒歩の場合

..... 約30分

タクシーを利用する場合

..... 約5分～10分 (料金は約**720円**)

バスを利用する場合

..... 約20分 **バス代 170円**

宮崎駅西口1番バス乗り場から

「青島行き」又は「大学病院行き」に乗車し

「橘通1丁目」下車後、徒歩10分

2) JR南宮崎駅から

徒歩の場合

..... 約30分

タクシーを利用する場合

..... 約5分～10分 (料金は約**720円**)

バスを利用する場合

..... 約20分 **バス代 170円**

JR南宮崎駅から宮交シティバスセンターまで徒歩2分

宮交シティ「1・2番乗り場」から

「宮崎駅行き」又は「宮崎神宮行き」に乗車し

「橘通1丁目」下車後、徒歩10分

3) 宮崎空港から

JR宮崎空港駅 JR宮崎駅まで 約25分 特急・各駅停車が1時間に各1本程度。

タクシーを利用する場合 約15分～20分 料金は約**2,200円**

バスを利用する場合 約30分 **バス代 370円**

宮崎空港前「1番乗り場」から「宮崎駅行き」に乗車し「橘通1丁目」下車後、徒歩10分

4) 宮崎港から

タクシーを利用する場合 約10分～15分 料金は約**1,200円**

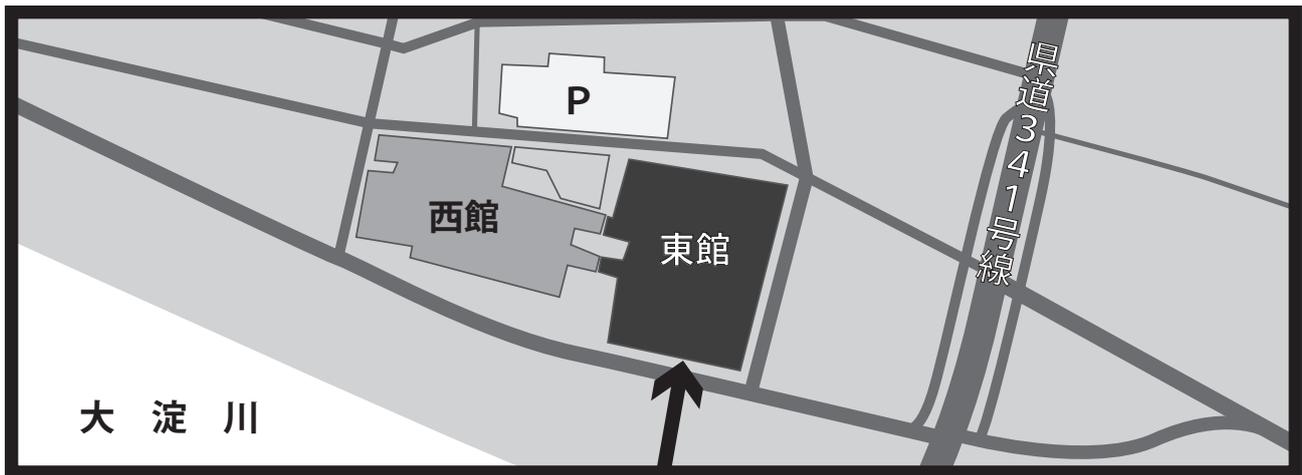
バスを利用する場合 約35分 **バス代 300円**

宮崎港ターミナル前 バス乗り場から「宮交シティ行き」に乗車し「橘通1丁目」下車後、徒歩10分

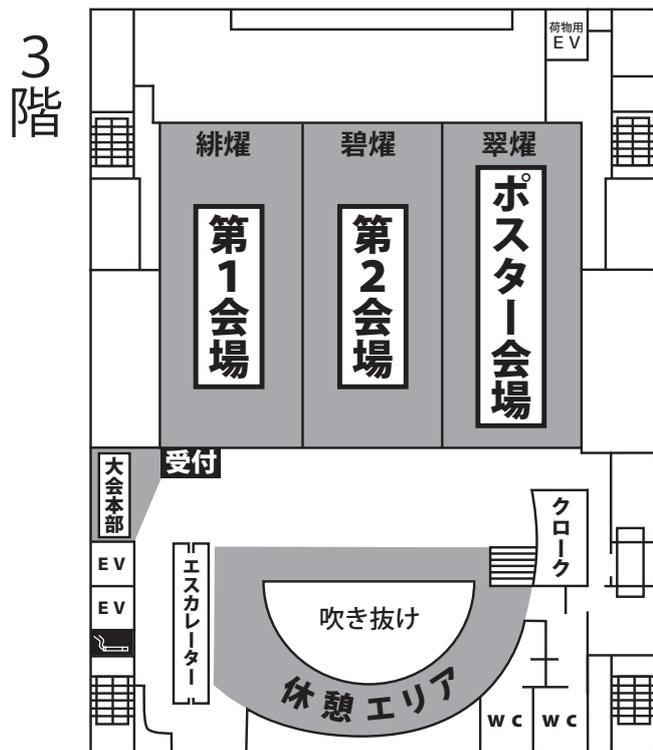
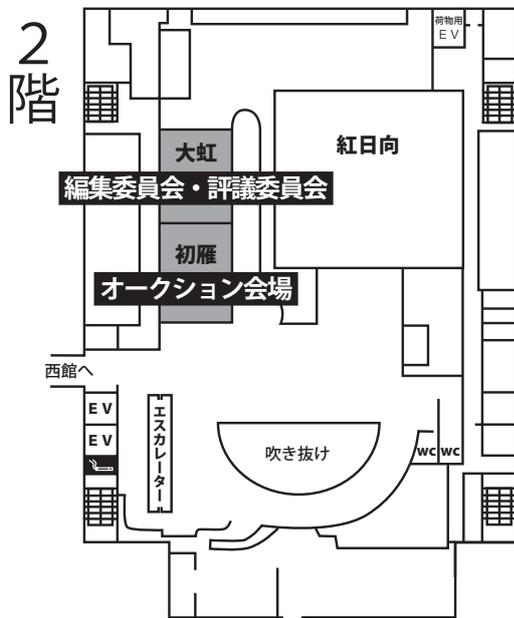
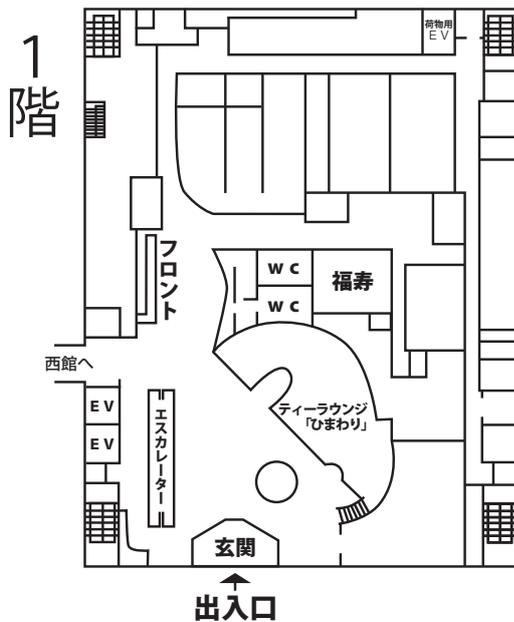
5) 宮崎自動車道宮崎ICから

自家用車を利用する場合 約10分

会場「宮崎観光ホテル東館（新館）」



宮崎観光ホテル東館（新館）拡大図



2階	
オークション会場	初雁
編集委員会・評議委員会	大虹
3階	
受付	緋耀前
第1会場	緋耀
第2会場	碧耀
ポスター会場	翠耀
総会場	緋耀
懇親会会場	緋耀・碧耀
シンポジウム	緋耀
休憩エリア	吹き抜け周囲